

## I 生活科 研究テーマ

思いや願いをもって対象への働きかけ、実感を伴いながら気付きの質を高めていく子どもを育む学び

## II 研究の重点

対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気付きの質を高めるための手立て

## III 3年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 実感を伴った気付きから、活動が発展していくような単元構成の工夫

児童が実感を伴った気付きを得て、活動をよりよくしていくことができるように、1年生は附属幼稚園そら組と、2年生は田んぼと長期的に関わる活動を続けてきた。1年児童は、幼稚園児と繰り返し関わる中で、相手に思いを寄せ、一緒に活動するよさを味わった。体験入学の準備の際には「一緒に楽しむ」をめあてに、相手意識をもって様々な遊びを展開させた。2年児童は時間をかけて田んぼと関わることによって、稲の生長や命の大切さ、気付き、それを守るためにポスター作りや雑草取り、すずめ除け作りなどの取組に発展させていった。また、収穫前には「お米への感謝を表現したい」という児童の声から収穫祭を創り、様々な遊びや催しなどの表現が生まれた。児童が活動の中で手応えを得られるような対象を設定し、時間を掛けて関わることのできるような単元構成にしたことが児童の豊かな気付きにつながった。

2年生「きらきら収穫祭をひらこう」の単元では、それまでのお米のお世話の中で感じてきたことや、心に残ったことを、祭りを創る活動で児童一人一人が遊びとして表現した。さらに「祭りを創る」というゴールに向かって活動することによって、それぞれの遊びをコラボレーションさせたり、場所やルール作りに工夫を凝らしたりする姿が見られた。その中で新たな遊びが生まれていき、楽しい催しや新たな文化が創り出された。一人一人の豊かな気付きを、学級全体の活動に発展させていけるような活動の設定により、個々の気付きがつながったり、新たな気付きが生まれたりして、活動が発展していったのだと考えられる。

対象に繰り返し関わる中で更新された思いや願いを基に、児童は選択・決定を繰り返しながら活動を発展させ、協働的に学びながら気付きの質を高めていった。このような単元構成の工夫を次年度以降も続けていきたい。

#### (2) 気付きをつないでいく教師の関わりや子ども同士の学び合いの支援の工夫

個別の気付きをつなぎ、気付きの質を高めるために二つの支援を継続的に行ってきた。

一つ目は個別の活動の積み重ねの可視化である。おもちゃ作りやお米の世話について、個別の活動の写真を掲示し、児童が自由に吹き出しを使ってコメントを書き込めるようにした。それにより、児童は友達がどのように活動を発展させているのかを知ることができた。写真やコメントを見ながら「友達の活動をよりよくするためにはどうしたらよいか」「自分の活動に友達のよさを取り入れることはできないか」と、考える中で自然な学び合いが生まれた。

二つ目は、協働的な省察の視点による振り返りである。「祭りを創る」「パーティーを開く」等、みんなで一つのものを創り出す活動を設定することにより、振り返りの場で自分の活動について語るだけではなく、みんなの活動をよりよくするためにどうしたらよいかを互いに助言し合う姿が生まれた。知恵を出し合う中で、うまくいかなくても何とか課題を解決しようとしたり、もう一度作り直してみようとしたりと、試行錯誤を重ねる態度が育っていった。

気付きをつないでいけるように、協働的な活動の設定と、それを振り返る機会を設けるなどの、支援を継続して行っていきたい。



### 2 課題 豊かな気付きを更に深めるための場の設定

3年次研究の重点である「対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気付きの質を高めるための手立て」については、前述の取組による成果が見られたと考える。また、2年次研究での課題であった「児童がより没頭できる活動の設定」についても、関わる対象や単元構成の工夫により一定の成果が見られた。一方で、体験と表現の繰り返しによる気付きの質の高まりには個人差が見られた。一人一人の活動の発展を全体の気付きの質の高まりにつなげるために、全体で活動のねらいを共有したり、活動中の気付きを焦点化して掘り下げたりするような場の設定を単元の中で継続して設定していくことが必要であると考える。また、全体の学びをより豊かにするためには、個人での省察を深めることも重要である。じっくりと自分の学びを振り返り表現する時間も大切にしていきたいと考える。